

課題名	36. イチジクハウス栽培における適正結果枝
成果の要約	<p>イチジクは結果枝が伸長しながらその葉腋に基部から順に結実していく特性を持っているので結果枝の伸長と収量、果実の大きさ、品質の間には密接な関係がある。そこでハウス栽培における適正な結果枝を明らかにするため結果枝長と収量、果実重、品質の関係について調査した。また、適正葉面積指数についても検討した。</p> <p>(1) 結果枝長と収量には高い正の相関がみられ、長い結果枝ほど収量が多くなった。</p> <p>(2) 結果枝が長いほど果実重も大きかったが、結果枝150cm以上では低下する傾向にあった。また、果皮L値は長い結果枝ほど高い傾向にあった。</p> <p>(3) 葉長、葉柄長、葉面積及び生葉重の間にはそれぞれ高い正の相関がみられた。葉面積との相関は葉柄長より葉長の方が高く、葉面積の推定には葉長の測定が適している。</p> <p>(4) 葉長の測定から推定した葉面積指数(結果枝間隔40cm)と結果枝長の相関を見たところ、高い正の相関がみられたが、結果枝150cm以上は低下する傾向にあった。</p> <p>(5) 収量、品質からみて結果枝の長さは収穫開始時で150cm程度がよく最適葉面積指数は1.8程度であると思われる。</p>
成績概要	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="178 1009 945 1394"> <p>(a) $r = 0.86$</p> </div> <div data-bbox="945 1009 1575 1394"> <p>(c) $r = 0.60$</p> </div> </div> <p>図1 結果枝長と収量の相関</p> <p>図2 結果枝長と果実重の相関</p>

成

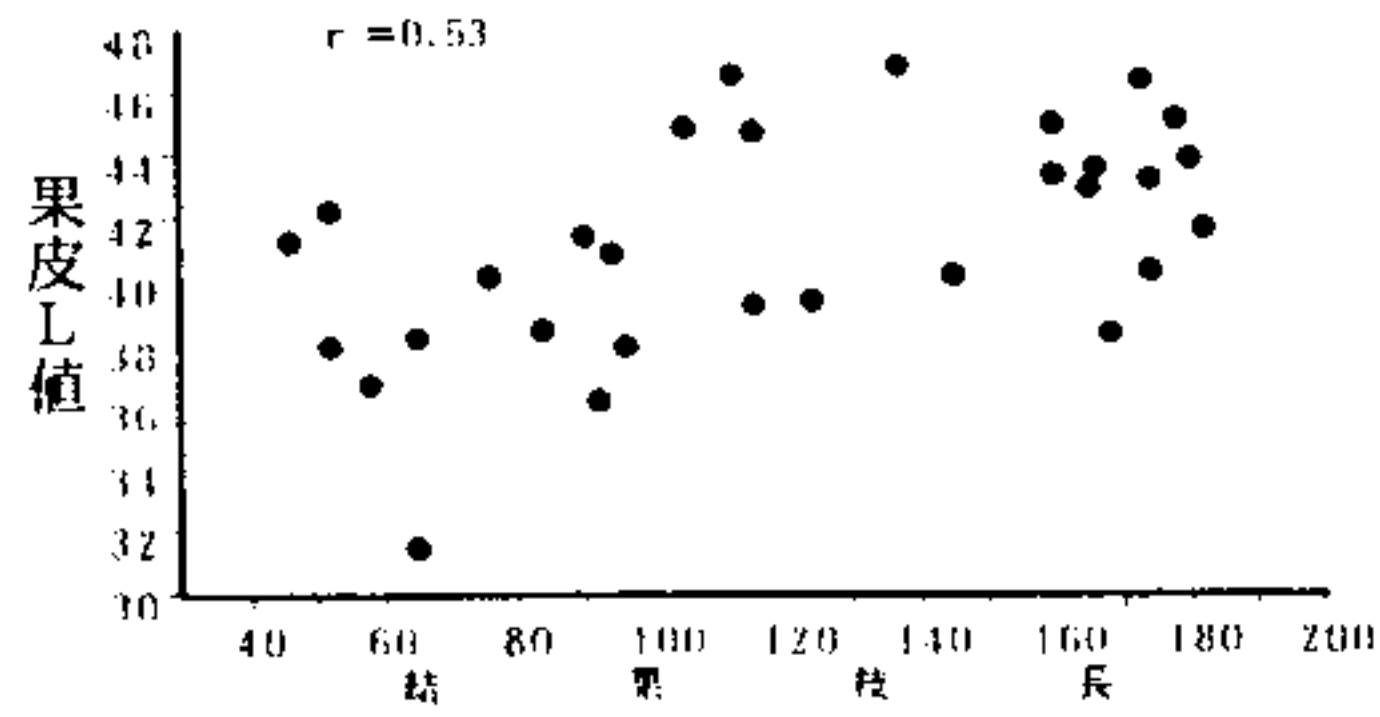


図3 結果枝長と果皮L値の相関

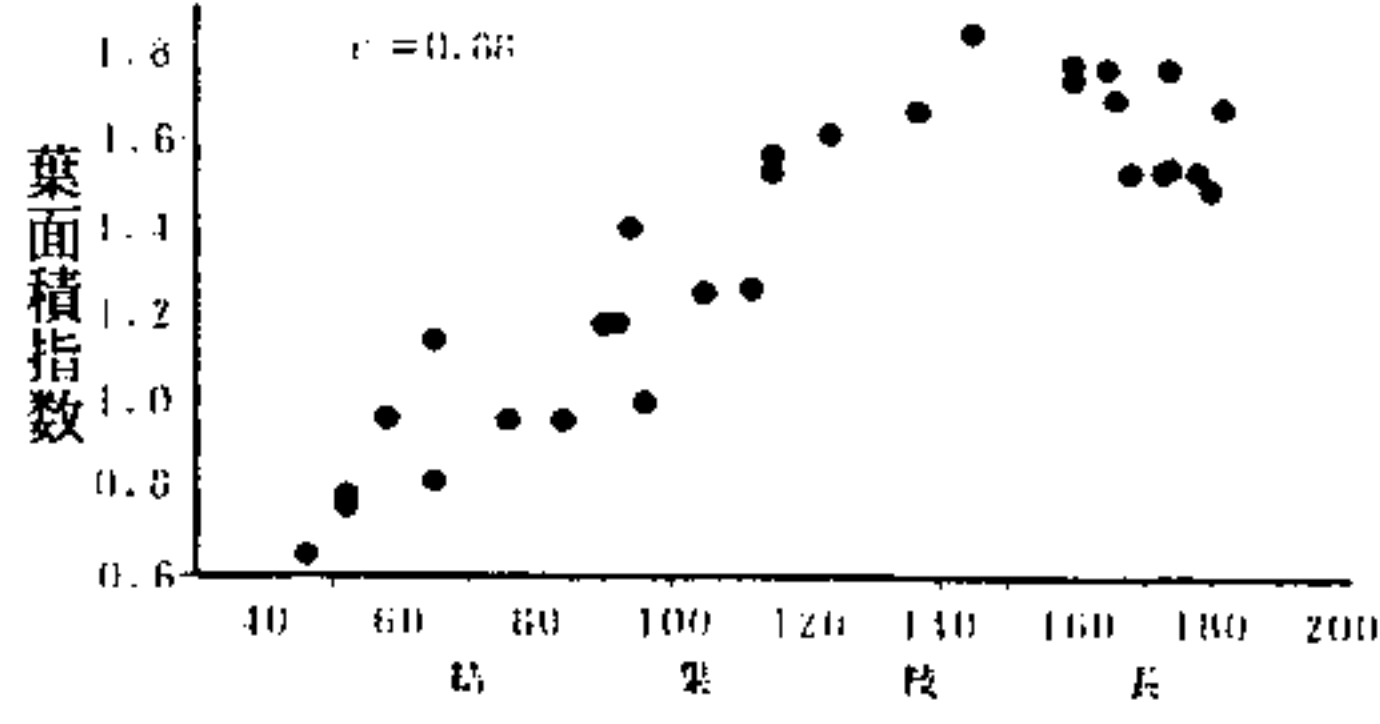


図4 結果枝長と葉面積指数 (L A I) の相関

表1 葉面積と葉長、葉柄長及び生葉重の相関

	葉 長	葉柄長	生葉重
葉 面 積	0.978	0.923	0.984
葉 長	—	0.904	0.949
葉 柄 長	—	—	0.945

$y = 26.9x - 19.4$ y : 葉面積 x : 葉長

績

概

要

(果樹試験場)

普及上の留意点

(1) 樹勢が強く結果枝の伸長が旺盛な園では150cmをめぐりに摘心を行う。